

1 運営形態の検討状況

(1) (仮称)奈良県国際芸術家村の運営等に関する意見

平成30年2月9日
奈良県国際芸術家村構想等検討委員会

当委員会（H29.11.8）での運営等に関する意見
○全体を統括して見る事が出来る人材が必要

県内関係者による企画協議会、類似施設を運営する民間事業者等からの意見（下図参照）
○ホールやセミナー室などで文化芸術の取組を行う施設の運営については、県の関与が必要
○新規施設はリスクが大きい。体験プログラムの部分は指定管理よりも、個別発注とした方が良い。

(仮称)奈良県国際芸術家村企画協議会

【開催日時・場所】

平成29年11月24日（金） 10:00～11:30 天理市役所 4階 特別会議室

【出席者】

- <金融機関> 南都銀行 公務・地域活力創造部長、奈良中央信用金庫 地域創生推進室長
奈良信用金庫 地域創生室長、大和信用金庫 理事・総合企画部長
- <観光関係> 一般財団法人奈良県ビジターズビューロー 業務執行理事、
天理市観光協会 専務理事
- <農業関係> JAならけん 天理営農経済センター 所長
- <伝統産業> 奈良県産業共励会・奈良県工芸協会 事務局長
- <国際交流関係> 公益財団法人ユネスコアジア文化センター文化遺産保護協力事務所 次長
- <地元関係> 天理市区長連合会長、天理大学 常務理事・総務部長、天理市商工会長
- <行政> 天理市 副市長

【概要】

(仮称)奈良県国際芸術家村の管理・運営や今後のあり方等を検討するため、関係者による協議会を開催。運営体制等について検討状況を説明後、意見交換。

【会員からの主な意見】

- ・芸術家村について具体的に目に見えるようになってきた。歴史文化、考古学、国際人の育成など様々なところで関わっていけると思う。
- ・天理参考館や天理大学など天理市には国宝級のものがたくさんあるが、あまり皆様に知られていない。芸術家村ができることによって、一緒にPRしてもらって、天理市を活性化して欲しい。
- ・ホールやセミナー・講座室を持つ複合棟の運営について民間事業者はなかなか手をあげにくい気がする。運営にあたっては県の関与が必要になると思う。
- ・県外や海外からの観光客など電車を使って訪れる人にとっては、芸術家村まで歩いてもらうのが一番良いが、コミュニティバスなど公共交通も必要だと思う。

民間事業者等との意見交換

<全体の運営>

・道の駅の運営事業者がトップに立った場合、収益ベースの観点でのみ判断するおそれがあるが、県の意見を反映するためにも全体のことを考えて企画運営できる総支配人が必要。

<プロデューサー>

・文化芸術のプロデューサーは入れた方が良い。プロデューサーはみんながこの人なら「面白そう」と感じる人でないと、人が集まらない。

<指定管理>

- ・プロデューサーと指定管理者との業務・責任についてしっかりとした区分が必要。
- ・施設の維持管理も含め一体運営となると利益をもっていかれるため、民間としては望ましくない。民間が収益をあげるため頑張ろうとするインセンティブにならない。
- ・管理は本来業務でないため、維持管理まで一体発注するならJVを組む必要がある。できれば切り分けて契約してほしい。
- ・新規施設はこれまでの実績に基づくことができないため、集客が読めずリスクが大きい。リスクをうまく分担できるような、公募の仕様にしてもらえればありがたい。
- ・施設の貸館自体は可能である。ただ、複合棟のホールの管理となると音響や照明のノウハウが必要であるため、どこかと連携する必要がある。

<体験学習などのソフトの取組>

- ・複合棟の貸館事業に企画やセミナー誘致等が含まれると重荷になる。
- ・体験プログラムの部分は指定管理よりも、個別発注としてもらった方が良い。
- ・料理教室については人材の確保も難しく、ノウハウもないので、おそらく委託する形になる。外部委託の場合でも収益を上げるのは難しいので、行政で補填は考えてほしい。

<県窓口>

・自治体の準備室は開業後、解散するケースが多い。開業後も指定管理者と効果的なパートナーシップを組める体制づくりが公共にも必要。

県の政策実現など
総合的に比較検討

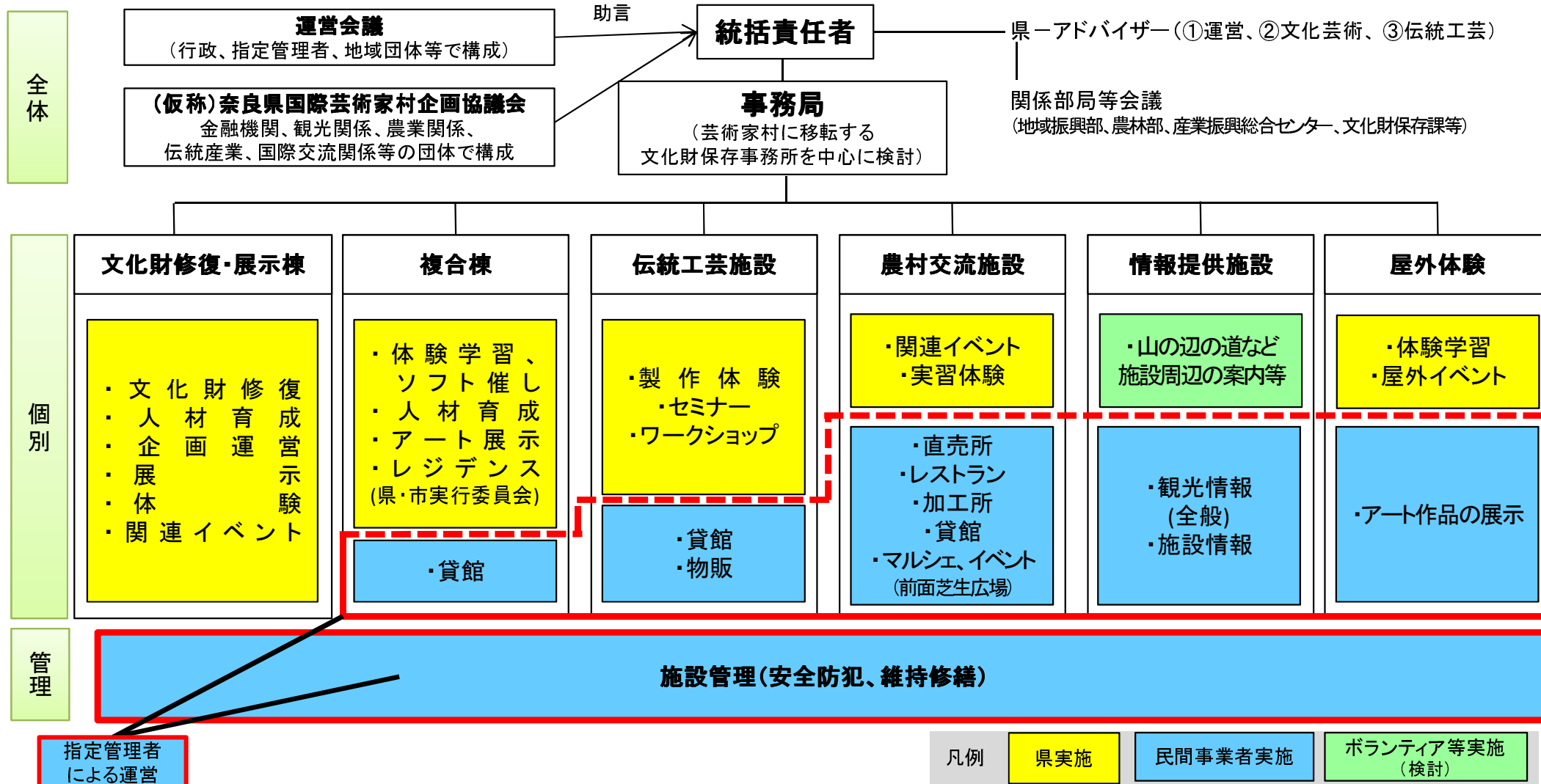
当委員会で前回提示した運営形態（4案）のうち、「複数事業者が全体を運営し、文化芸術などの取組のみ県が個別発注する形態」が望ましい

運営体制（案）は
次ページのとおり

1 運営形態の検討状況

(2) (仮称)奈良県国際芸術家村における運営体制(案)

平成30年2月9日
奈良県国際芸術家村構想等検討委員会



統括責任者を中心に県や天理市、民間事業者(指定管理者を含む)、地元団体などが連携・協力して全体を運営。

文化芸術分野など専門性が高い分野に関しては別途アドバイザーを配置して運営をサポート。

民間の創意工夫やノウハウを活用できる部門(上図青色)は指定管理者に委ねる。

文化芸術等の体験学習などソフト部分(上図黄色)については、政策的な観点や来訪者のニーズなどを踏まえ県が実施(民間団体、NPO等への委託を含む)。

将来的には実施主体となり得る民間団体等が主体となった、地域に根ざした取組へ段階的に移行することも検討。

■奈良県文化振興大綱

【趣旨】
歴史と芸術が息づく心豊かな文化の都・奈良県を目指す

【方向性】
過去の文化から学び、様々な英知を得、また芸術文化活動を通じて現代をより豊かに生きること、本県が日本や地域の文化を新たに創造していく力を持つ県、郷土の誇りを基礎にして、文化の力を地域や産業の発展に活かす県となっていくことを目指します

【概要】
奈良県の強みである「歴史文化資源活用分野」と「芸術文化振興分野」に力点を置いて、文化振興施策を推進

歴史文化資源活用分野

- 歴史を通して日本及び地域の文化への理解を深める
- 奈良に住まうことへの誇りと文化継承の機運の醸成
- 観光・まちづくり等各分野における地域振興施策に歴史文化資源を活用

両分野を両輪として
施策を推進

芸術文化振興分野

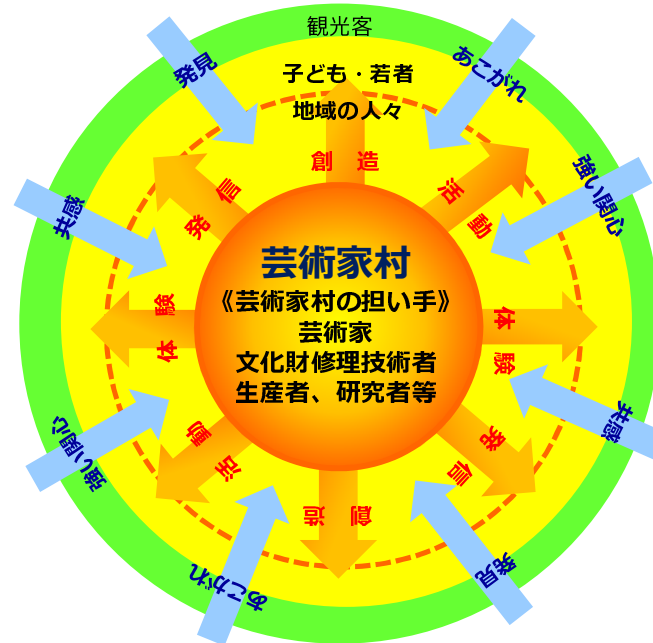
- 県民が芸術文化に親しみ、また自ら活動に参加する機会を創出
- 将来にわたって本県の芸術文化をリードしていく人材を育成
- 本県が、芸術文化の振興により、県民をはじめとして国内外の多くの方が集い交流を深められる場となる

【県内文化振興関連施設の役割】

- ・将来を担う子ども達が本物と出会い感動し、自発的に学ぶ力を身につける場
- ・社会で活躍する人達の生涯学習の場
- ・歴史文化資源を未来へ継承するため、これらの確実な保存・活用・展示を継続的に行う場
- ・地域に住まう人々が地域の歴史文化資源を認識、共有し、地域の誇りと矜持を育む場

(仮称)奈良県国際芸術家村の目的

- 文化振興大綱の趣旨にある「歴史と芸術が息づく心豊かな文化の都・奈良県」を目指す総合拠点。
- 過去から現在にかけて、人々の文化活動によって生み出され、守られてきた奈良県の歴史と文化芸術を学び、さらに自ら文化活動を行うことにより、人々が現代を豊かに生き、郷土の誇りを基礎にして、新たな文化を創造していく力をもつことを目指す。



- 文化芸術の総合拠点である(仮称)奈良県国際芸術家村に関わる人々(担い手)による、強みをいかした活動等を実施。現在進行形の生きた文化芸術を創造・発信する。

- 地域の人々や来訪者に対して、文化芸術やその担い手の活動等への「発見・関心・共感」を抱く契機とする。

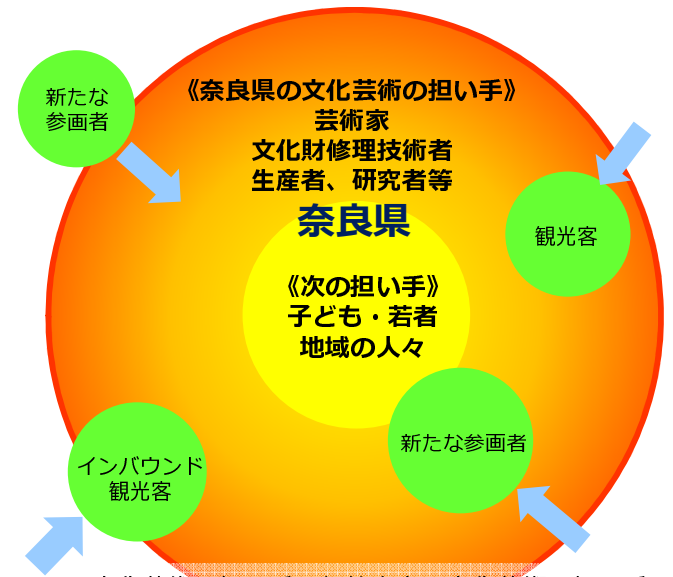
- 担い手による「活動・創造・発信」と地域の人々、子ども・若者、来訪者からの「発見・関心・共感」が繰り返されることにより、県民・来訪者が奈良県文化芸術とその担い手に対し「誇り」「あこがれ」を持つ。

歴史と芸術が息づく心豊かな文化の都 奈良県へ

県民・来訪者すべてが文化芸術活動を支える支援者であり、文化芸術の担い手である姿

文化芸術への人々の「誇り」により、文化芸術を守り育てることへの理解の裾野を広げ、文化芸術が人々の生活に自然と溶け込み、暮らしと深く関わる。

生活の中に文化が溶け込む文化的素地の中で、地域の人々が生活し、次の文化芸術の担い手が育まれる。



- ・文化芸術の担い手の価値向上、文化芸術の担い手より生まれたモノ・コトの価値向上を目指す。

(仮称)奈良県国際芸術家村の各施設における拠点性をいかした「学ぶ」「遊ぶ」「食べる」「買う」の展開により、県民・来訪者が心の豊かさや生活の潤いを実感。

- 「学」企画展示、文化財修復作業公開・解説、人材育成、郷土教育(文化財、農村文化、伝統工芸等)、郷土料理教室(食文化)など
- 「遊」文化芸術に関する様々な体験・講座、屋外体験など
- 「食」地元食材を活用した料理など
- 「買」農産品・加工品、工芸品など

3 (仮称)奈良県国際芸術家村における文化芸術振興の方向性をふまえた「学び」と「拠点づくり」

(1)「学び」(文化財修復・展示棟) 展示の考え方について

平成30年2月9日
奈良県国際芸術家村構想等検討委員会

- 文化財修復・展示棟では、広く「発見・関心・共感」を抱く契機とするため、芸術家村の文化芸術における目的、理念などのメッセージを発信。
- 芸術家村の出発点として、各棟・施設、様々な分野をつなぐ。

展示構成

- ①メッセージ等を伝える、エントランス、体験・情報コーナー
- ②文化財修復の世界を伝える、工房等展示・公開・解説
- ③工房展示・公開・解説や企画展と連動した導入展示
- ④奈良県の多様な文化資源の魅力を発信する企画展示

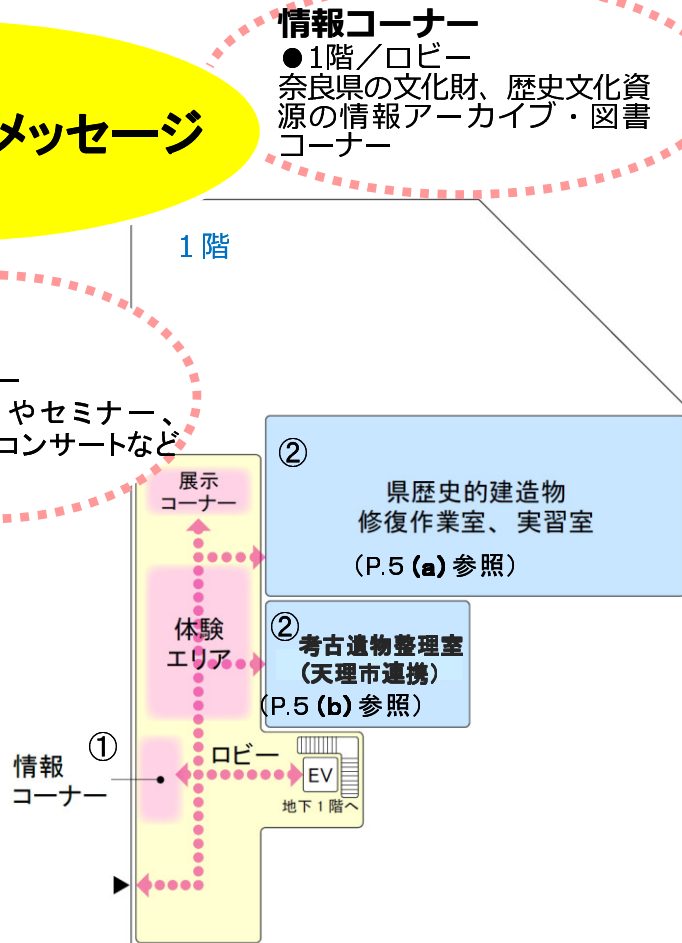
①

芸術家村からのメッセージ

1階/エントランス

体験エリア

- 1階/ロビー
- 様々な催事やセミナー、ミュージアムコンサートなどを実施

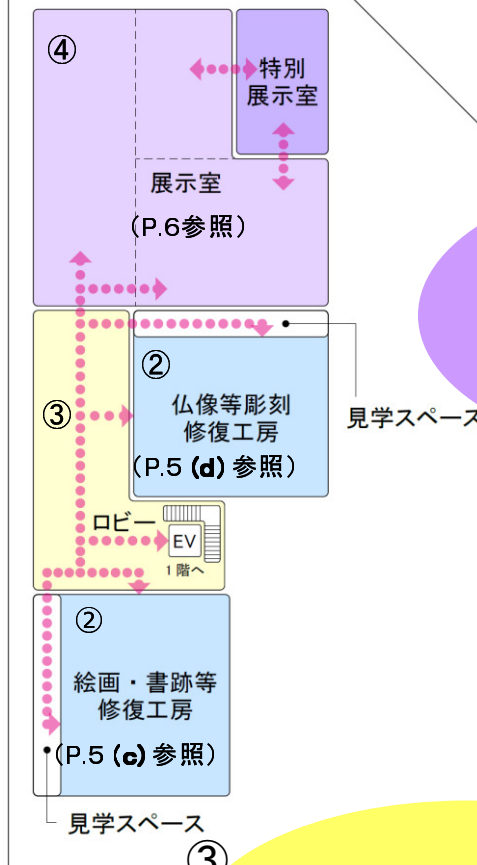


②

修復の世界を伝える

- 1階/建造物修復作業所・考古遺物整理室
- 地下1階/絵画等修復工房・仏像等修復工房
- 展示や映像を通じて過去から未来へと継承する修復の世界を紹介する

地下1階



④

奈良県の文化・芸術を伝える

- 地下1階/展示室
- 奈良県の多様な文化資源を紹介するために、テーマを設定した企画展を実施

奈良県の文化・芸術を伝える

- 地下1階/ロビー
- 展示室への導入展示を行い、企画展示室へといざなう

3 (仮称)奈良県国際芸術家村における文化芸術振興の方向性をふまえた「学び」と「拠点づくり」

平成30年2月9日

奈良県国際芸術家村構想等検討委員会

(1)「学び」(文化財修復・展示棟) 文化財修復 展示・公開・解説について

文化財修復に関する展示・公開・解説を通じ、保存技術などを守り伝える人々の存在や修復技術などの「修復の世界」を学び、本物に触れる機会を提供

分野構成

- (a)歴史的建造物修復、(b)考古遺物整理(1階)
- (c)絵画・書跡等修復、(d)仏像等修復(地下1階)

1、常時公開エリア

《作業場》

・歴史的建造物修復、考古遺物整理について常時公開

《可視エリア》

・絵画・書跡等、仏像等彫刻の修復作業のうち、常時公開可能な工程を公開
* 工房として雰囲気・機能を失わず、かつ工房内をある程度、整理された状態で見せるために、機能面、見せ方を検討。

《展示コーナー》

・修復技術の紹介や、技術の守り手達を紹介するコーナー。
・複合施設の強みを活かし、他施設に関わる他分野の職人や、つくり手達などの視点を通して、修復の魅力の発信も検討。

1) 修復技術の紹介

どのような技術で守られてきているか、「技術」や「過程」などを紹介。

例)修復行程や道具、模造等製作品

2) 修復技術の守り手の存在を伝える

どのような人が修復に携わっているのか、その作業を行う「人」を紹介。

例)職人としてのこだわり、修復の世界に入ったきっかけ、作品制作など職人以外活動紹介

2、特別公開エリア

《作業場》

・絵画・書跡等、仏像等彫刻の修復作業を公開
* 常時公開エリアと特別公開エリアの間にルーバーを設置し、繊細な作業を要する職人への配慮を行う見え方を調整し工房への配慮を行う

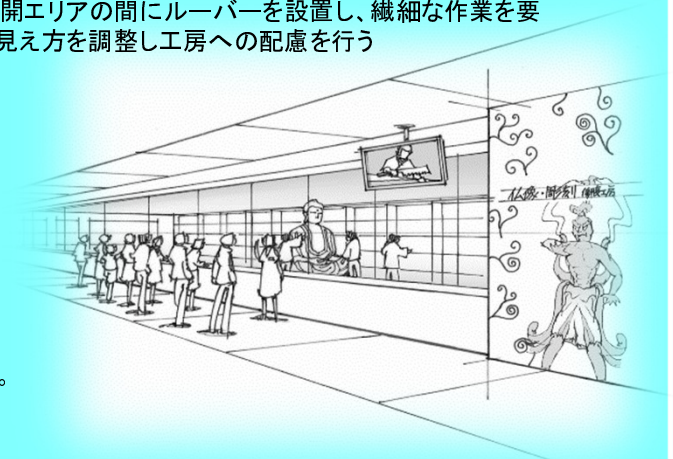
《見学ルーム》

・来訪者に修復の世界をわかりやすく伝える為、また、職人や修復物件所有者に配慮して作業場を公開する為に設置。
・日時等設定、申込制、解説付きで検討。

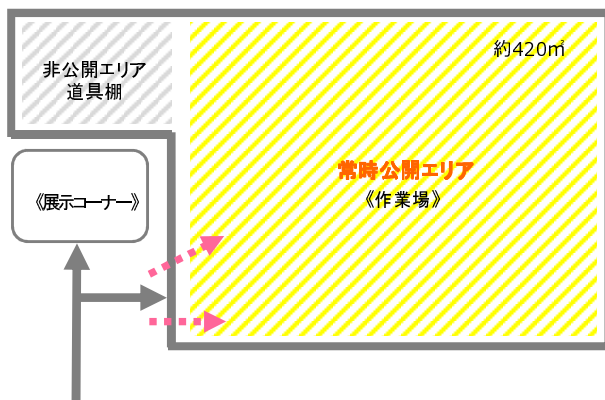
[構造]

・ガラス前の展示台に解説用の展示物、解説等を設置。
・モニターを設置し、作業行程を公開。

◎選定保存技術保存団体等の意見をふまえて検討



(a) 県歴史的建造物 修復作業室、実習室



通常見学

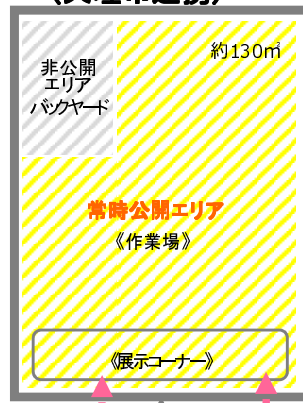
■ 常時公開エリア

《展示コーナー》
・現在行われている作業の紹介等

《作業場》

・歴史的建造物の修復作業
・1階ロビーおよび2階ブリッジより公開

(b) 考古遺物整理室 (天理市連携)



通常見学

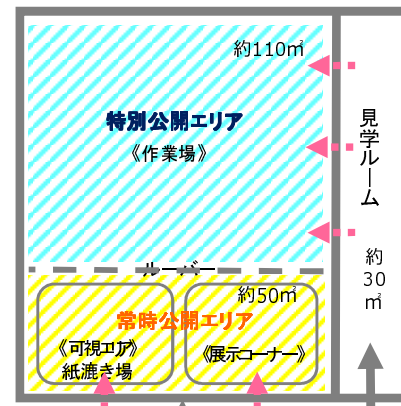
■ 常時公開エリア

《展示コーナー》
・現在行われている作業の紹介
・現在発掘中の現場の紹介
・発掘、整理作業を終った天理市文化財課所蔵資料の紹介

《作業場》

・考古遺物の修復作業

(c) 絵画・書跡等修復工房



通常見学

見学申込
来館者

■ 常時公開エリア

《展示コーナー》
・現在行われている作業の紹介等
《可視エリア》

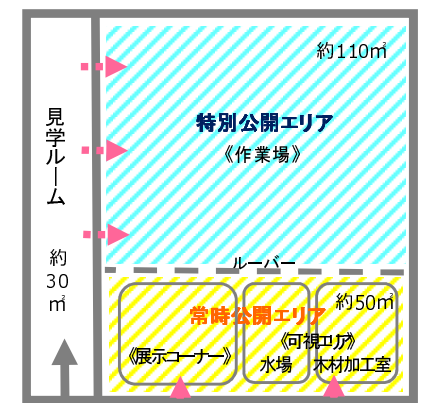
[紙漉き場]

文化財修復に用いる紙を漉く作業場を公開

■ 特別公開エリア

《作業場》
・絵画・書跡等の修復作業

(d) 仏像等彫刻修復工房



見学申込
来館者

通常見学

■ 常時公開エリア

《展示コーナー》
・現在行われている作業の紹介等
《可視エリア》

[水場] 修復に用いる刃物を研ぐ作業場を公開

[木材加工室] 修復に用いる部材の加工場を公開

■ 特別公開エリア

《作業場》
・仏像等彫刻の修復作業

3 (仮称)奈良県国際芸術家村における文化芸術振興の方向性をふまえた「学び」と「拠点づくり」

(1)「学び」(文化財修復・展示棟) 展示室 企画展について

平成30年2月9日
奈良県国際芸術家村構想等検討委員会

様々な分野の拠点性を活かしたテーマ性のある展示

各施設が蓄積した情報・人脈等を最大限に活かし、芸術家村に関わる異分野同士をつなぐ展示

時代に沿った様々な手法を用いて、奈良県の文化資源の魅力を発信

多角的な視点で来訪者が様々な“発見”を得る

芸術家村に拠点のある文化資源にとどまらず奈良県の多様な文化資源を扱う

美術工芸 建造物 無形文化財 民俗文化財 選定保存技術 考古 記紀万葉 歴史人物 市町村資料 工芸 食文化 農村文化 現代アート など

各分野の連携をハードとソフトで対応することにより、魅力あるプログラムを継続的に発信

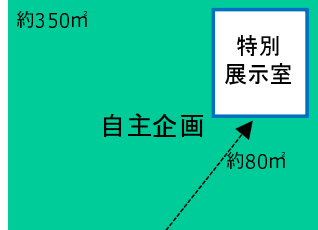
①展示室【ハード】での対応

○企画展の規模や内容に、柔軟に対応できる展示室を整備

■修復棟展示室活用例(年間の活用イメージ例)

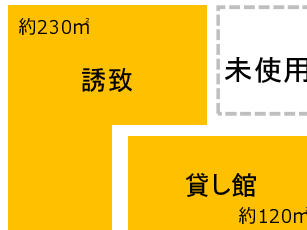
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
展示室①	[自主企画] 大・修復技術展			[誘致] 伝統工芸近畿展	[誘致]		[自主企画] AIR展 (現代アートの祭典)		[自主企画]		[誘致] 天理市文化財課 企画展	
特別展示室	修復後物件展示						映像コーナー		映像コーナー		里帰り 国指定品展示	
展示室②				[貸し館]		[自主企画] おらが町展 (市町村資料)		[貸し館]	[貸し館]		講演会 ワークショップ	

対応例-1

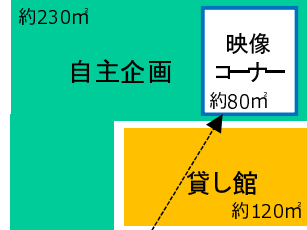


国宝及び重要文化財の展示が可能

対応例-2



対応例-3



異なる展示手法の併用が可能

②展示企画【ソフト】での対応

○奈良県の多様な文化資源の魅力を、多彩な視点と手法を用いて企画・発信

■展示企画(例)

企画展①「自主企画」

●ポイント

- ①奈良県の文化資源に関する展示
②芸術家村ならではの手法を用いる
例)考古×現代アート展、農村文化×アート展
修復技術×音楽展、食×器展 など
- 2、アートの視点を入れる
例)市町村資料+奈良リサーチAIR展
選定保存技術+アート展 など
- 3、体験、体感
例)「触って楽しむ仏像」展 など

企画展②「誘致」「貸し館」

●ポイント

- ①奈良県の文化資源に関する展示
②チャレンジの場として、広く県民に門戸を広げる
例)文化庁主催「日本のわざと美」展
日本伝統工芸近畿展
里帰り展(天理市文化財課の考古展)
現代作家(工芸家等)展 など

各施設につなぐ

修復棟 伝統工芸施設 農村交流施設 複合棟 屋外体験ゾーン

情報提供施設

県内文化資源(現地)につなぐ

3 (仮称)奈良県国際芸術家村における文化芸術振興の方向性をふまえた「学び」と「拠点づくり」

(1)「学び」(文化財修復・展示棟) 企画展のイメージ

平成30年2月9日
奈良県国際芸術家村構想等検討委員会

文化財修復・技術をテーマにした自主企画展のイメージ

1. 修復技術×サイエンス 「CTスキャン積層展示」

絵画や彫刻などのCTスキャンデータを積層させて展示、年代ごとのレイヤーで視覚的に過去の修復の過程、製作の過程を理解することができる。

2. 修復技術×巨大化 「修復の詳細がわかる×10模型」

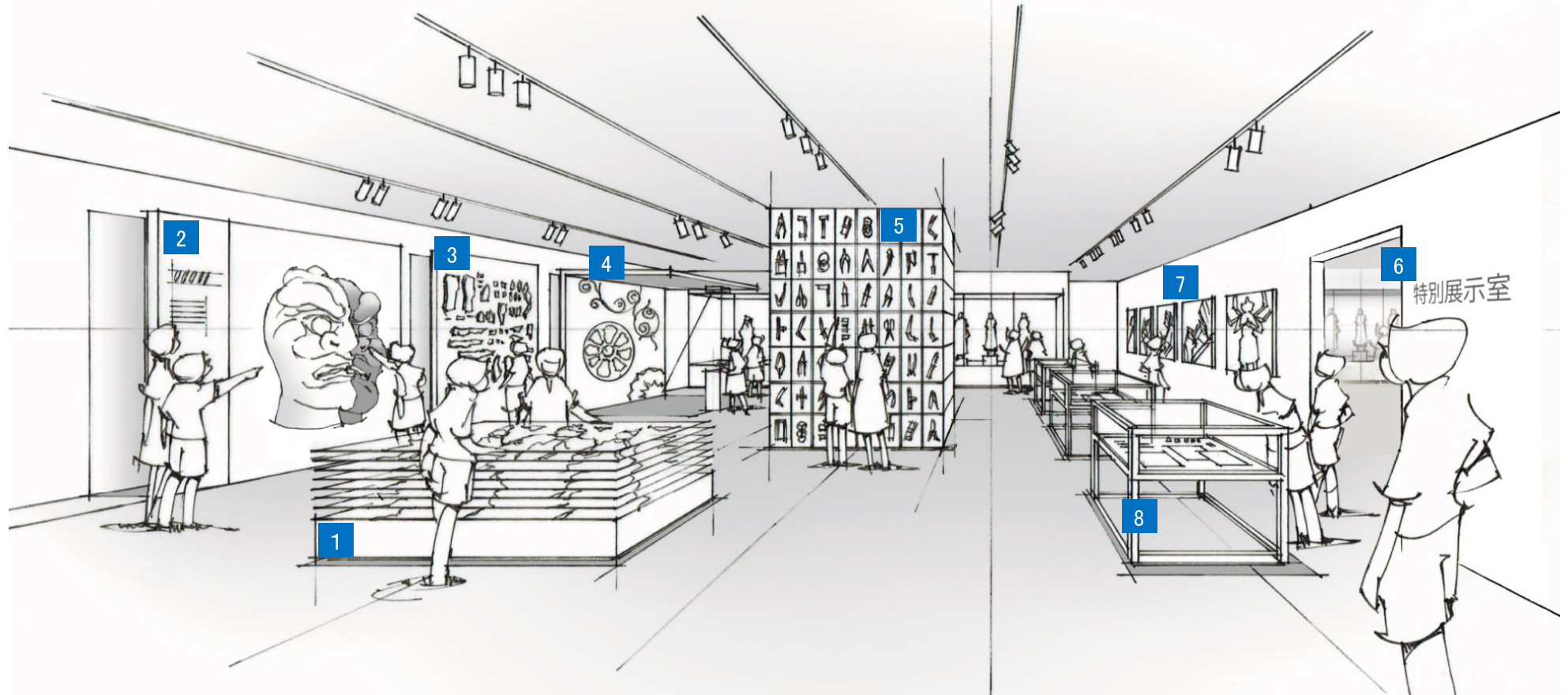
緻密な修復作業を理解できるようにする拡大模型を設置、模型の左右などで修復ビフォーアフターを紹介し細部にわたるこだわりと技巧を訴求する。

3. 修復技術×バラバラ 「土器・装飾物分解展示」

修復に際してはその構造を理解することが重要。発掘されたバラバラの土器や建造物の装飾物等を分解し整頓した展示でその精密さと修復のポイントを伝える。

4. 修復技術×デジタルアート 「自分で絵画修復体験」

壁画を模した壁面に端末上で来場者が描いた模様や色彩が反映される。当時の壁画をイメージしながら自分自身で修復体験を行える。



5. 修復技術×アート 「修復道具の塔」

大小や様々な道具が使用される修復工程においてすべての道具を一同に集めて群展示として展開。インスタレーションとして身近に道具に触れることでそのバリエーションへの関心を高める。

6. 特別展示室 修復技術×実物展示 「最新の修復物展示」

ウォールケースを活用し、最も直近で修復が完了した彫刻、絵画部材等の実物を展示。

7. 修復技術×写真家 「修復の手仕事ギャラリー」

職人、技術者が行う修復の様子を写真家とのコラボレーションにより写真展として展開。

8. 修復技術×参加展示 「奈良の文化資源古写真展」

県民参加型の展示として、県民から古写真を収集、古写真を通じて文化資源を守り伝える意義をあらためて強く訴求する。

※展示テーマ・内容等については平成30、31年度に具体化を図る。